

不安利用した拙速な政治

専攻 専攻財
教育行政学、教育困窮
対策センター・公益財
団法人あすのばは理事。
1974年生まれ。



末富 芳さん
かおり

日本大学教授

中学3年生や高校3年生、就活生の不安を緩和することだと思えます。例えば、入試の出題範囲を狭めて、受験生に忝くことか急がれます。コロナが、再び恐ろしくありますから、大学入試は冬だけでなく、来夏にも行つの一案です。夏入試に合格した学生たちを入学させる臨時的な措置としての9月入学は、あり得ると思えます。一方で、小中高校で大事なのは、勉強が遅れかねない子どもたちに学習支援員をつけたり、心身のケアのためのケアも注視する必要があります。首相はこれをレガシー（遺産）にしようと考えているかは、そうした取り組みが、学びの遅れた子どもたちの学力を分断してしまい、実現は難しいのではないのでしょうか。日本教育学会の試算によると、来年から9月入学を導入した場合、各年で入学時期から9月延び、約7兆円の財政負担や家計負担が生じますが、「改革」を打ち上げます。大学入試の英語民間試験や記述式試験の導入失敗は、記憶に新しいですが、コロナ禍でも繰り返されたのです。安倍晋三首相は2月末、専門家に諮らず、全国一斉休校を要請。地域の実情も考慮さなは、今度の冬に受験する今、なによりも優先すべき弊し掘乱すでしょう。

だじか思えません。これまで政治家は、教育基本法の改正や愛国心の強調など、教育を「国民統合の手段として安易に使ってきました。今回も当事者の不安を利用し、現場の意向も顧みず、「改革」を打ち上げました。大学入試の英語民間試験や記述式試験の導入失敗は、記憶に新しいですが、コロナ禍でも繰り返されたのです。安倍晋三首相は2月末、専門家に諮らず、全国一斉休校を要請。地域の実情も考慮さなは、今度の冬に受験する今、なによりも優先すべき弊し掘乱すでしょう。

感染の第2波に備え、オンライン教育の充実、環境整備も必要です。9月入学の準備のために膨大なコストをかける、人員と時間を割いている場合ではありません。政治家のみならず、教育を実験台にして、政治による新実験を引越すのはやめてください。子どもや若者の尊厳を守り、学力権利を尊重していただきますことを切に願っています。(聞き手・桜井泉)

突然の9月入学騒動

コロナ禍に降ってわいた「9月入学」。目新しさを求める政治家らが飛びついたが、次々に課題が指摘されると、一気にしぼんだ。現場を置き去りにした「騒動」から見えるものは――。

「全員同じ学び」こそ問題

少し外れば「ドロップアウトする」とおびえます。今年度が始まった新学習指導要領は、アクトイラニングやプログラミングなど盛りだくさん。休校中の学びをこれら無理なく取り返せるのでしょうか。コロナ禍でここまで学校教育が揺れるのも、余裕のない硬直化した教育システムが一因です。9月入学はいったん見送られる方向ですが、今回の議論は学校の常識を相対化して考える格好の機会です。海外では、入学や卒業の時期を選べる国も多い。個別の習熟度や子どもの関心に対応した学びもあります。日本も一斉主義を弾力化し、それに対応できる学級規模や柔軟なカリキュラムを採り入れた方がいい。10年後の次の学習指導要領改訂に向けて準備することを考えてはどうでしょうか。

重要なのは、学校教育だけを委ねればいわけではなない、ということです。繰り返しますが、日本では教育と社会が表裏一体。子どもがどんな選択をしても不利にはならず、学校は社会に変えないで、いくらか現場は国が定めた学習指導要領や授業時間の確保に迫られる中で「均等な国民教育」もその一環だったので、親も子どもも既定路線を

4月なのか、9月なのか。今回の「9月入学」論議では、この二者択一の議論はかりがら目立ちます。でも学校教育が揺れている今、考えるべきことは他にあると思えます。日本社会では、4月に小学校生になると、その後は毎春のどに1年生ずつ進級し、高校や大学を3月に卒業して翌月に就職……という「間断なき移行」が当たり前にとられてい

ますが、それには歴史的背景があります。学校制度が始まった明治初めには、入学時期も年齢も異なる子どもが一緒に学び、試験で進級していきました。それが1890年前後に、明治政府は同年齢の子どものみからなる学級制を始め、会計年度と同じ4月を起点としました。憲法や内閣制などの国家体制を作っていく中で「均等な国民教育」もその一環だったので



小針 誠さん
こばね まこと
青山学院大学教授

1978年生まれ。教育社会学、教育社会学史。ラソクテイ教育の理想と現実」など。著「ソクテイ教育の理想と現実」など。

(聞き手・藤田さつき)